

## 平成29年度第1回上天草市総合教育会議議事録

- 1 日時 平成29年11月24日 午前9時30分～午前11時50分
- 2 場所 上天草市役所大矢野庁舎書庫棟2階会議室
- 3 出席者  
(構成員) 堀江市長、高倉教育長、山下教育委員、古川教育委員、  
田中教育委員、松本教育委員、小嶋副市長  
(事務局) 中教育部長、赤瀬学務課長、中田社会教育課長、  
中田学務課長補佐、原田社会教育課長補佐、佐藤総務課長補佐、  
大石学務係長、松本施設係長、篠田生涯学習係長、  
佐藤総務法制係長
- 4 議題
  - (1) 上天草市総合教育会議運営要綱の制定について
  - (2) 教育を行うための諸条件の整備及び教育等に関する  
重点的施策について
    - ア 学校施設の現状と整備方針について
    - イ 地域学校協働活動事業について
    - ウ その他
      - (ア) 小学校運動部活動の社会体育化について
      - (イ) 上天草高等学校と市内中学校の連携について
- 5 協議内容  
資料を基に事務局が説明した後、協議が行われた。  
協議の内容等は次のとおり。
  - 中教育部長  
定刻となりましたので、ただいまから、平成29年度上天草市総合教育会議  
を開会いたします。それでは、座長であります堀江隆臣市長からごあいさつを  
お願いいたします。
  - 堀江市長  
あらためまして、おはようございます。本日は御多用中のところ、平成29  
年度の上天草市総合教育会議に御出席いただき、ありがとうございます。また、  
教育委員の皆様には日頃から上天草市の教育行政の推進につきまして、格別の  
御理解と御協力をいただいておりますことをあらためてお礼申し上げます。さ

て、この会議は「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」に基づきまして、開催をしており、本年度で3年目を迎えます。御案内のとおり、地方公共団体の長と教育委員会の意思疎通を図り、地域の教育の課題やあるべき姿を共有するために開催するものでございます。教育分野の各種課題の解決にあたりましては、政治的中立性、継続性・安定性を確保しつつ、この会議での協議内容等を踏まえて、教育委員会と連携しつつ教育行政を推進したいというふうに考えております。本日の議題は大きく2つでございます。1つが上天草市総合教育会議運営要綱の制定について。2つ目が教育を行うための諸条件の整備及び教育等に関する重点施策についてとしています。本日の会議が、実りあるものになりますことを御祈念申し上げまして、簡単ではございますがあいさつに代えさせていただきます。どうぞ、よろしく願いいたします。

○中教育部長

ありがとうございました。それでは、協議事項に移らせていただきます。ここからは、座長である堀江市長に進行をお願いしたいと思います。よろしくお願いします。

○堀江市長

それでは進行させていただきます。まず、協議事項1「上天草市総合教育会議運営要綱の制定について」を議題といたします。この議題について、事務局からの説明を求めます。

○赤瀬学務課長

説明いたします。上天草市総合教育会議は、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第1条の4の規定に基づいて開催しております。これまでは、総合教育会議の運営に関し必要な事項、細かいルールは定めておりませんでした。この会議も3年目となりましたので、開催・運営するために必要な事項を定めさせていただきたいというものでございます。制定の内容としまして、第1条では、要綱制定の趣旨を規定しております。第2条では、所掌事項を規定しております。第3条では、構成員を規定しております。法律では、地方公共団体の長と教育委員会が構成員とされております。地方公共団体の長とされておりますが、これは市長部局という意味でとらえるべきと解釈しております。よって、副市長は市長を補助し、事務執行上の責任を有していらっしゃいますので、市長及び教育委員会の意見を把握しておいていただきたいという主旨からも「会議に出席し、意見を述べることができる」としているところでございます。第4条では、招集について規定しております。第5条では、意見の聴取を規定しております。第6条では、会議の公開を規定しております。第7条では、傍聴について規定しております。第8条では、議事録の作成及び公表を規定しております。第9条では、庶務について規定しております。以前、市長か

ら教育委員会へ事務委任がされております。なお、施行期日は本日からと考えております。以上で、上天草市総合教育会議運営要綱（案）の説明を終わります。御承認いただきますようお願いいたします。

○堀江市長

ただいま事務局から要綱（案）について説明がありました。つきましては、委員の皆様から御意見等はございませんでしょうか。3年目に入りましたがこれまで特に定めがなかったということです。副市長は総合教育会議のメンバーに入っておりませんが、オブザーバーという形で今日も参加をしてもらっています。今後ともオブザーバーという形で出ていただいて、私とともに行政部局の責任者ということで全体を把握していただきたいということです。よろしくようお願いいたします。よろしいでしょうか。

（意見なし。）

○堀江市長

協議事項（1）については承認いただきました。次に、協議事項（2）「教育を行うための諸条件の整備、教育等に関する重点的施策について」意見交換をさせていただきます。はじめに、「学校施設の現状と整備方針について」、事務局から現状等の説明を受けたあと意見交換したいと思います。事務局からお願いします。

○赤瀬学務課長

学校施設の現状と整備方針について御説明いたします。資料1ページから、本市の人口の現状について説明いたします。この資料は、第2次総合計画より抜粋したのですが、本市の人口は、市外への人口流出による減少傾向が顕著であり、平成20年から25年までの住民基本台帳をもとにしたコーホート変化率法による推計では、平成65年の人口は11,480人となり、平成20年度から21,839人の減少が予測されています。下表の人口3区分から見た将来推計を御覧ください。全体人口の内、15歳から65歳の生産年齢人口の減少が顕著であり、地域の高齢化に拍車をかけています。また、長期的には15歳から65歳の生産年齢人口を65歳以上の人口が上回り、地域コミュニティーを持続することが厳しい状況に直面することが危惧されます。なお、15歳から65歳の生産年齢人口の減少は、本市の児童・生徒数の減少に大きく影響を与えることから、今後、児童・生徒数の減少は急速に進むことが予想され、現在の学校規模による学校教育活動の維持は困難な状況となることから、長期的な視点に立った学校規模の適正化をふまえ、安定した学校教育環境の整備が求められています。現在、上天草市には、小学校11校、中学校7校が設置されており、その多くが老朽化による施設改修などの対策が必要な状況となっています。また、平成26年度から合併算定替えの縮減期間に入り、普通交付税の減少に伴う厳

しい財政状況の中で、予想を上回る速さで進む少子高齢化や人口減少に併せ、市民ニーズの多様化・高度化など社会情勢等の変化により公共施設等の利用需要も大きく変化している状況です。資料3ページ、上のグラフを御覧ください。グレーのグラフが、本市の全体の児童・生徒数の推移を示しています。平成20年には2,785人であった児童・生徒数は、平成29年では1,880人となっており、10年間で905人が減少しています。なお、平成40年には1,532人になることが予想されます。これを小中学校別にみると、青のグラフで表記している小学校児童数は、平成20年は1,757人、平成29年では1,224人となり、10年間で533人が減少し、平成40年には958人になることが予想されます。また、オレンジのグラフの中学校生徒は、平成20年は1,028人、平成29年では656人となり、10年間で372人が減少し、平成40年には573人になることが予想されます。2ページにおもどりください。現在の学校規模適正化計画ベースでの学校区別の児童・生徒数を記載していますが、各校区におきましても、平成29年から今後10年間で大きく減少が進み、登立小学校区が平成20年度322人、平成29年度228人、平成40年度142人、平成29年から10年間で86人の減少と推計されております。上・湯島小学校区が平成20年度243人、平成29年度212人、平成40年度161人、平成29年度から51人の減少。中北・中南・維和小学校区が平成20年度304人、平成29年度225人、平成40年度212人、平成29年度から13人が減少。松島小学校区が、平成20年度523人、平成29年度327人、平成40年度295人、平成29年度から32人が減少。姫戸小学校区が平成20年度163人、平成29年度88人、平成40年度43人、平成29年度から45人が減少。龍ヶ岳小学校区が、平成20年度192人、平成29年度144人、平成40年度105人、平成29年度から39人が減少すると推測されております。また、中学校におきましては、大矢野中学校区が、平成20年度518人、平成29年度351人、平成40年度321人、平成29年度から30人が減少。松島中学校区が、平成20年度263人、平成29年度177人、平成40年度150人、平成29年度から27人が減少。姫戸中学校区が、平成20年度102人、平成29年度44人、平成40年度35人、平成29年度から9人が減少。龍ヶ岳中学校区が、平成20年度145人、平成29年度84人、平成40年度67人、平成29年度から17人の減少が予想されております。資料の4ページをご覧ください。下のグラフは第3次財政計画より抜粋しましたが、本市の財政状況における歳入・歳出の推移は平成25年度と比較し、平成31年には歳入・歳出ともに大きく減少する中に、ほとんど均衡する状況が推測されます。地方交付税が大きく減少する中、職員の適正な定員管理、事務事業の点検、繰上償還による公債費負担の適正化等の行財政改革を進めることで財政運営の健全化を進めていますが、今後も更に人口減少・少子高齢化に伴う社会保障等の義務的経費の

増大により、普通建設事業等の投資的経費は縮小されることが予想されます。上天草市第3次財政計画等においては、公共建築物・インフラ等に関し、今後の普通建設事業費を年間10億円としている状況です。今後は、学校施設等の老朽化に伴い、ますます維持管理コストの増加が見込まれることから、人口規模に見合った計画的かつ効率的な施設配置や整備計画が急務となっており、施設整備については、施設規模の見直や改修による長寿命化等に取り組むことで、運営コストの縮減や平準化を図る必要があります。資料の5ページをご覧ください。中央のグラフは、学校施設の現況を示しています。本市の学校施設は、128棟、延べ床面積64,675㎡で、全体の46%が旧耐震基準で建築された建築物であり、今後、老朽化した大量の施設が更新時期を迎えている状況です。また、建築後30年以上経過した施設が延べ床面積ベースで全体の70%となっており老朽化が著しい状況です。構造別に見ると、鉄筋コンクリート造が51棟、延べ床面積47,419㎡、鉄骨造が55棟、延べ床面積16,073㎡、木造が22棟、延べ床面積1,183㎡となっています。資料の6ページをご覧ください。学校施設運営上の課題として、老朽化した学校施設の更新等、下記の事業に取り組むこととしていますが、これらの事業を既存施設すべてで実施した場合は、かなりの予算を必要とし、その予算の確保は困難な状況にあります。そのため、緊急性・必要性・優先度等を検討し、総合的かつ効率的な整備が必要となります。表には、小中学校の営繕事業・小中学校空調設備設置事業・小中学校トイレ改修事業・小中学校ICT環境整備事業・学校給食調理場整備事業など、今後、施設整備に関し必要となる事業内容を記載していますが、今回の協議については、現在、学校環境を取り巻く問題として、教室内の温度上昇による学校環境の悪化、授業への影響が問題視されている小中学校空調設備設置事業について、御協議、御意見いただければと考えています。資料の7ページに、参考として、現在の空調設備の設置状況を添付していますので、御確認ください。以上で説明を終わります。

#### ○堀江市長

ただいま説明がありました、学校施設と整備方針について御意見をいただききたいと思います。概要は、ざっくり小中学校の営繕事業、空調整備事業、トイレ改修事業、ICT事業、給食調理整備事業の説明がございました。空調関係は色々と御意見をいただいて、我々も計画を進めているところですが、今の状況は添付してありますので、この辺も踏まえて、どの分野でも結構ですので、御意見いただければと思います。空調関係から説明しますと、議会でも度々設置の要望もいただいているところがございます。12月の議会において基本設計の提示をして、30年度の国の補助金の申請に向けて進めていきたいと思えます。30年度に実施設計を示し順次整備していく方針で考えています。空調

設備、トイレ改修を含めて、大規模改修の補助金が文科省に設定されていて、これが採択されると3分の1は国から助成金が出るという制度なのですが、どの自治体も同じ課題を抱えていて、国に対する申請がとても集中していて、国が全てを拾える財源を抱えていない。今の状況からすると、補助の採択までに少なくとも1年から2年くらいかかるのが現状。エアコンの改修になりますと、夏休みに入りますし、17校を一気に工事するのは厳しいと思っています。それと、上小をはじめとして普通教室の建替えについては、その時期に合わせてやるのが賢明です。大規模改修は、補助の内容をみても普通教室の改修を優先した予算配分になっています。時期としては2年から3年のスパンで整備をやるというのが現実的かと思っています。また、トイレの洋式化なのですが、緊急の課題ということで現場から聞いたんですが、進めていかなければならないと思っています。

○高倉教育長

松島中学校に学校訪問をいたしました折に、子ども達が使える洋式トイレがなくて、養護の先生から話を聞きますと、生徒達から「まだ洋式トイレにならないのか」と子どもたち自身からの声が聞こえてくるそうです。最低限必要な数を学校ごとに整備していただくとありがたいです。家庭で洋式トイレ化するのは、97%だそうです。できたら男女別に1つずつ入れて欲しいと思っています。

○堀江市長

学校給食調理場の整備についてですが、ドライシステムを導入する必要があります。衛生上こちらが主になってきています。それで、調理場について上天草を4つに集約する方向で考えています。民間に委託するわけではなく、学校の中で行うのは変わらないんですが、拠点を4つに集約するという方向で考えています。ICT関係についても、まだ十分な整備が行われてなくて、予算もあってなかなか進んでいないのが現状です。タブレットの進化の度合いが早く導入しても追いついていないという現状です。それでも、学務課と協議をしていて、それぞれの学校に均等に配布できるような整備を考えているところです。

○堀江市長

他にございませんか。

○小嶋副市長

6ページに施設の老朽化についてありますが、かなりの予算が必要になってきます。すぐできるかできないかを計画的に仕分けしていかないといけません。トイレの整備については、比較的頑張ればある程度計画的に進めていけるかと思えます。かなり学校施設へ整備をしているという姿勢を示さないといけ

ません。国への補助金のタイミングがあるので、例えば30年度に補助金の申請をすると、補助金が出るのは再来年度ということで、31年度に整備事業をすると、実際に恩恵を受けるのは、その次の32年度になる。今の小学校の5、6年生が中学校になった時に付く。今の中学校生徒は結局エアコンの恩恵はうけないまま卒業するということになります。その点は政策的には最短なんですが、例えば4年先になるとどうかと思います。3年生のクラスからするとか財源を見つけてきて何らかの形で対応するとか、当面のつなぎの対策として考えなければならないと思います。早めにエアコンとトイレをやりたいと思います。

○堀江市長

実際、国の採択を待てば、全部の自治体が申請すると考えると、もしかすると最初と最後の差が10年ぐらいあるかと思います。できれば同じ時期に設置してあげたいのですが。そう考えると、副市長が言われたように、合併特例も選択肢の1つです。来年で終わる予定ですが、延長の動きもあります。そうすると他の考え方も出てくる。随時国の動きを見極めながら計画をしていくしかありません。

○堀江市長

事業費にしてはかなり大きいですが、一番お金がかかるのが、高圧の電力を引かないといけないということです。その集積する所が電気工事としてお金がかかります。当面、学務課と協議して普通教室と特別教室で現実的に必要な教室だけを整備していこうと考えています。実際、生徒数の減少で空いてる教室が増えてきていますので。

○高倉教育長

是非よろしく申し上げます。7ページに載ってますが、図書室とパソコン室はどの学校も入ってますので、ここを除いたところで必要なところから順次入れていただければと思います。

○小嶋副市長

教室のどれだけ入れるかで高圧も違うんでしょ。

○赤瀬学務課長

基本的には教室の50アンペアの基準値を超えると高圧になります。今の所、改修が必要じゃないところで特別教室に設置できているのが現況です。それと支援教室など体温調整が必要な児童がいる所については設置しています。今の契約で行けるギリギリのところでは設置がされています。

○小嶋副市長

例えば、学校ごとに整備していくやり方がいいのか。そうすれば、最初にする所と後でする所と計画的にいくと3年なり5年なり差が出てきます。例えば特別教室に先に入れて、受験生の勉強とかどうしても暑いときは図書室を優先

的に使って対応できるとなれば、ある程度まとめて整備できます。そういうやり方の方が平等にできると思います。

○堀江市長

図書室はほとんど入ってるんですね。

○高倉教育長

現在そのように使っています。暑いときは図書室に移動して使っています。

○山下委員

3階建てとかになると、姫戸中学校に学校訪問で行ったときに、真夏では1階と3階の温度差が大きかったです。風が通らないと3階は暑くて。夏場は上が暑くて、冬場は暖かいので良い等ありますが、階層的なものがあり、平屋とは違いがあります。建物の作りによって違いがあるので、そこら辺も検討される中に入れていただければと思います。

○田中委員

全体的なところで、40年以上経っている所が36%ということですが、営繕で改築は出てきてますが、立て直すとは出てきてないですけど。40年以上経っているのはどこですか。

○赤瀬学務課長

まず、57年以前のほとんどの施設で耐震化工事を行っています。耐震化を行っていないところが中南・上小の特別教室ですが、それ以外はほとんど耐震化以前の建物です。

○堀江市長

次の地域学校協働活動事業について協議をしたいと思います。

○中田社会教育課長

それでは、地域学校協働活動事業について説明したいと思います。資料の1ページを御覧ください。平成26年度から熊本県の学校を核とした補助事業で補助率3分の2を活用して地域学校協働活動事業を実施しています。事業の目的としましては、未来を担う子どもを健やかに育むためには、学校、家庭、地域住民等がそれぞれの役割と責任を自覚しつつ、地域全体で子どもたちを育む体制づくりを目指す必要があります。そのため、学校・家庭・地域が連携協力し、地域住民の参画による地域の実情に応じた取り組みを有機的に組み合わせ、授業等における学習補助や業務補助などの学校支援活動を行う体制づくりを推進します。さらに、地域住民の生涯学習・自己実現に資することで、活動を通じて地域のつながり・絆を強化し、地域の教育力の向上につなげます。この事業の柱は2つありまして、教育支援活動の実施・運営と地域教育コーディネーターの配置です。一つ目の教育支援活動の実施・運営に関しましては、地域の様々な方の参加を得て、授業の補助、自学自習等の支援、読み聞かせ、学校

行事の運営支援などの学校の要望に応じた支援活動を行います。この活動を通じて、地域教育力の向上を図ります。具体的には表紙に活動の写真を掲載していますが、さつまいもの苗植え体験では、講師となって苗の育て方から収穫まで、イラストを使い子ども達にも分かりやすく教えています。また、昔の遊びの伝統として、地域の高齢者が竹とんぼの竹の削り方を教えたり、刃物の使い方と危険性を体験させたりしている。さらに、子どもの登下校の安全のため、毎朝交差点で見守りをしていただいている地域の方も多数いらっしゃいます。この活動を通じて地域の生涯学習を推進し、子どもに対する地域教育力の向上を図ります。二つ目の地域教育コーディネーターの配置についてですが、市内の学校への学校支援活動の総合的な調整役を担う「地域教育コーディネーター」を配置しています。役割としましては、学校や保護者等の地域のボランティアに連絡調整を図り、子どもの体験活動・学習支援を推進します。次に、この事業と流れを示している所で3ページを御覧ください。学校からコーディネーターである地域学校教育活動推進員に対し、子どもの学習や体験活動を支援するボランティアの派遣をします。コーディネーターはその内容・人数を打ち合わせ、各団体へ調整し、実施者を選定し、学校と調整を図り、その後ボランティアが学校や地域で活動を行っていく。次のページにこの活動の平成28年度の実績を掲載していますが、少し間違いがあり差し替えてあります。市内のすべての小中学校で、活動が実施されており、活動日数は1,238日です。学習支援活動として、書道等の授業の補助が270日、体験活動支援が106日、登下校の安全指導が731日、子どもの1日当たりの体験参加人数は40人です。また、1年間を通じて、ボランティアの参加年間延べ人数は6,215人です。今後も、各小中学校と地域の連携し、事業も継続して地域全体で子どもを育む体制づくりを推進していきます。続きまして、次のページの「地域未来塾」について説明します。先程の説明の中で別紙資料にありましたが、平成28年度学校・家庭・地域連携推進事業の取組み状況として、各小中学校の学習支援の取組みでどういったことをしているのかということで、授業の補助・体験活動・学校行事・その他を掲載しています。その分につきましては、学校とのヒアリングの中で、作成したものです。地域未来塾は、熊本県地域未来塾事業補助金、補助率は3分の2を活用して、平成28年度から実施しています。事業の内容としましては、地理的な事情等により、地域に学習塾がなく、学習意欲はあるが、家庭での学習習慣が十分身につけていない中学生への学習支援として、地域の住人・学習塾の民間教育・事業者等の幅広い地域の協力を得て、中学生の学力の向上を図ります。平成28年度は、地域に学習塾がない中学校のうち、モデル校として姫戸中学校3年生を対象に実施しました。教科は、数学・英語2教科です。12月から2月まで週1回で延べ20回実施し、成果としては2月に学力考査を実施し、

4月の学力考査と比べて2教科とも平均2点上がったところです。本年度は、対象を姫戸中学校、龍ヶ岳中学校、維和中学校に拡大し、数学・英語を8月から2月まで週1回実施しています。今後も予算範囲内で実施していきます。

○堀江市長

活動事業に携わっていただいた地域の方々や保護者の意見はどうだったんですか。

○中田社会教育課長

高齢の方は、若い方と交流できて元気を貰ったし、自分たちが昔からやっていることが学校のためになるということで大変喜んでいただいています。

○堀江市長

上小学校の学習支援活動が70日となっておりますが、毎週されてるのですか。

○高倉教育長

週2回ですね。

○田中委員

それと、登下校の安全指導ですが、学校によって取り方が違うのかなと思いますが、ほとんどは毎日の見守りの数を取ってあると思うんですが、龍ヶ岳小学校は1日となっているのは、交通安全教室の1日だけになっています。地域で何か所かで登下校見守りもされてるんです。学校によって違うのではないかと思います。

○中田社会教育課長

確かに交通指導員も含めて報告している学校と、純粹に活動した日を報告している差があると思います。今年度は職員が入り込んでこの辺も深く調査したいと思います。

○堀江市長

地域未来塾は2年目ということですが、今年はどうですか。

○堀江市長

予算はどのくらい。

○中田社会教育課長

28年度は補助対象経費で21万7,500円、29年度は41万2,000円を計画しています。

○堀江市長

28年度は姫戸中学校で非常に好評でしたが、基本的には夏休みに実施されるのですか。

○中田社会教育課長

今は、8月から受験前の2月までとなっています。授業が終わった後に。それで、高校受験の前に試験をして効果測定としてさせていただきます。先程も言

いましたが、平均で2点上がってるので効果が出ていると考えています。

○堀江市長

8月から2月までで20万円くらいで実施できるのですか。

○篠田生涯学習係長

報償費として計上しているんですが、各学校に1人ずつ講師に来ていただいて、週1回でして、サポーターも入れています。先程課長から話がありました県の補助金を活用するという所で、3分の2の計上であり、全体では70万円計上させていただいています。

○山下委員

去年は中学校希望者21名ということで、姫戸中学校は全員だと思うんですが、今は3校になって希望者を取られてると思いますが、実質的には希望者というのは全員なんですか。

○篠田生涯学習係長

全員出席してくれているところです。

○小嶋副市長

こちらの事業は非常に金額的にはお金がかかりませんので、それぞれの自治体で色んなことができるし、知恵を出してこういう事業はとてもいいなと思います。学校の先生のOBの方もたくさんいらっしゃるし、自分も久しぶりに教えて生きがいを感じたり、学力だけではなくいろいろな面で、立派な子供たちを育てるために、学校教育プラスワンで、上天草独自でアイデアを出すとか非常にありだと思います。是非みんなで知恵を出して、第2弾、第3弾というようにしてもらいたいです。

○堀江市長

1つは、やる時に考えたのは、民間の学習塾がないエリアからやってみようということで始めたんですが、週に1回程度なら話し合いながらできるかなと考えています。

○松本委員

是非進めるべきだと思います。特に小学校低学年の演算能力の落ち方がひどいので、上天草市のモデルとして進めていただきたいです。費用も3分の2の補助ということで、かからないです。できれば学校と連携してできないかなと考えていました。

○堀江市長

あと、今後、小学校の社会体育が導入されるということですが、例えば大矢野のドリームズとか、大体7時からとかなので、小学生の場合は放課後の時間をどう過ごすかという課題が出てくると思います。その時間をこの地域未来塾とかに充てることできないか、教育委員会の方に投げかけてるところです。

子ども達にとってプラスになるような受け皿ができればいいと思います。これまでどおり学校が終わったらすぐ社会体育に移行するという学校もあるので、その辺は地域によって違うかと思います。

○古川委員

県が行う地域未来塾の授業の対象として、地理的に塾がない地域を対象にされたとありましたが、地理的な原因が重要なのかということと、本当に学習支援が必要な子どもという中では、不登校の子どもを心配してまして、多分生活リズムが整わなかったり、家庭の経済的理由によって、近くに塾があっても通えない子どももいるので、そういった所の支援も必要かと思うので、地域に塾があっても進められないのでしょうか。2つ目に、資料に、塾がない地域か学習習慣が十分に身につけていない中学生とありますが、学習習慣が十分に身につけていないではなくて、学習に意欲のある中学生ではダメなのかということでしょうか。3つ目に、小学生は対象にならないのかということをお聞きしたいです。

○篠田生涯学習係長

まず、地理的な要因ですが、モデルとして取り組んだということです。2つ目の経済的な理由により、塾に通えないということですが、確かに十分検討を重ねていかなければならないところですが、まずはモデル事業として先程の地理的なものと同じく取り組んだところですが、最後に、小学校はどうなのかということですが、地域未来塾については、非常に良い事業ということで他の市町村でもやりたいという所が増えてきています。小学校の方も28年度まではできなかったんですが、29年度以降は、上天草市におきましても、未来塾については中学校が対象ということで進めさせていただきます。ただ小学校の社会体育化ということがありますので、子ども達の放課後の時間をどう安全に有効にするかという所を検討したいと思います。

○田崎教育審議員

少し裏付けを付け加えます。まず、今年度全国の学力学習状況調査ということで、その中で質問式調査というのがありました。各教師、児童、生徒にですが、対象が小学校6年生と中学校3年生ですが、その中に本市における学力状況と取組状況の比較をしています。それと取組の内容についてはほとんど変わっていません。取組の質の向上が今後課題になってきます。新たなことをしていくよりも、取り組みの質を上げていくということが1つ。もう1つが通塾率です。塾に通っている子どもたちの率は、都市部に比べますと低い状況です。未来塾の話がありましたが、学力を上げていくには放課後の活用と、塾に変わる他の指導の充実がかなりポイントになっていきます。もう1つは、お茶の水女子大学の方で、全国学習状況調査の分析を国の方から委託されてましたが、

その中で経済の格差ごとに見たときに、非常に高い経済水準にある子どもで学習をあまりしていない子ども達の平均値と、経済的に低い中で非常に頑張っている子どもの比較をされました。すると、どちらが高いかというと、経済的に高い家庭で勉強しない子どもの方が高いというデータで、非常にショッキングなデータでした。それを改善していくためには学校教育しかないと考えております。その充実を図るために放課後、未来塾を使って学力を上げていくということが大事だと思います。

#### ○山下委員

今の小学校の放課後の話ですが、私も小学校の放課後を検討してるんですが、社会福祉法人の地域貢献という部分でそういうことを実施されてるところが多々あります。うちも地域交流スペースという所を開放して、是非その受け入れをできないかということのを数年前から考えておりました、中学校につきましては、今めどがついてきました。ただ、一番ネックになるのは、教えてくださいのOBの先生方がいらっしゃれば、地域によっては場所を開放して使ってもらってもいいという施設はあるんじゃないかと思います。もし学校の先生とかを教育委員会で登録して、ボランティア的な部分で来てもいいよとってくださるならば、是非していければと考えているところです。小学校は放課後に社会体育に行く前の空き時間に、仕事で遅い家庭は、子供を家に置いておくのが不安だという声を聞いたこともあります。よろしければ協力できる先生の登録などできれば助かります。

#### ○松本委員

高倉教育長、OBの先生方に呼びかけて見られたらいかがでしょうか。ベテランの先生方があの子たちに携わってくださったら、費用は3分の2貰ってという良い形でできると思います。

#### ○堀江市長

毎日は大変だと思いますが、1つの地域に1人か2人くらいはおられるのではないかと思います。

#### ○小嶋副市長

1ついいですか、さっき古川委員がおっしゃられたことで、この中身について答えられなかった気がします。地域未来塾という県の補助金のコンセプトでやれば、こういうことだと思いますが、例えば市単独でやれば検討できますか。

#### ○堀江市長

地域未来塾の補助金も期限付きだと思います。毎年度、採択を受けるのですか。実際、受け皿ができればどこでもやれる地域はやっていいと思います。今、3校になって担当者を見つけるのに苦労したとのこと。だから決して無償払いということではなく、ある程度費用を支払いながらも、ボランティア的な

活動になりますので、そこを御理解いただけるならば、なおかつ保護者の理解も必要です。また、田崎審議員の話聞けば、放課後の活用というか、学校のカリキュラム以外の活動も必要だと思います。

○高倉教育長

関連して、学校週5日制になって、格差が出てきたといわれていますが、経済的に豊かな家庭の子どもは2日間の休みを有効に使えます。自然体験もできます。習い事もできます。塾にも通えます。ところが、困窮している家庭の子どもは全くそういうことがなく、親に全然手をかけて貰えない。お昼ご飯さえも満足に食べられないということもあります。そういう格差がどんどん開いていきます。そこを少しでも縮めるために、土曜学校というものを本市では学期に1回ずつ、年に3回をめぐりにしていますが、これは月1回でも構わないわけです。ですから、来年度あたりから検討して少しでも格差を縮めるためにも、土曜学校・土曜学習というのを学校に取り入れてもらいたい。そして、コミュニティスクールという地域の方との学習時間帯に使っていただきたい。やっぱり週5日制の弊害が出てきたという結果は隠せません。

○堀江市長

土曜学習というのは、学校単位である程度計画は任せてあるのですか。

○高倉教育長

ひと月に1回すると、先生たちは5.5日休みを取ることになります。長期休業中の夏休みや冬休みに指定休日として休むことになります。そういった形も一つの手だと思います。

○堀江市長

後はよろしいですか。またその他でも御意見受けますので、次に進めます。その他の「小学校の運動活動の社会体育化について」事務局から説明をお願いします。

○中田社会教育課長

それでは小学校の運動部活動の社会体育化に関しまして、説明いたします。上天草市の小学校の児童生徒のための運動部活動及びスポーツ活動のあり方検討委員会の中で検討しています。期間は、平成30年度までに社会体育へ移行するというので、県から言われております。上天草市としましては、総合型スポーツクラブによるサテライト型とホーム型の2つのやり方を進めている所です。1つ目の単独のサテライト型というのは、概ね部活動が成立しているクラブを各学校単位で社会体育に移行していく。対象児童は4から6年生です。指導につきましては地域指導者が行います。活動場所は各学校の施設です。活動費はクラブの規則によって定めます。傷害保険ですが、スポーツ安全保険や賠償保険に当然加入してもらいます。責任者も地域の方の中から出していた

だくということで、学校側の協力も得ながら、学校が終わった後にできればと思います。送迎は各保護者です。次に、主に市施設（スポーツ公園等）を活用した総合型地域スポーツクラブによるホーム型ということで、上天草市には現在総合型スポーツクラブが2つあります。大矢野町がドリームズ。松島町がアロマクラブ。ということで、大きなスポーツクラブに加入するという形。対象児童は4から6年生です。指導者は地域指導者、主に総合型のスポーツクラブから派遣された方です。活動場所は市施設等です。活動費はクラブ規則によります。傷害保険・賠償責任はスポーツ安全保険です。責任者はクラブ長です。学校終了後の対応はクラブで対応します。送迎は各保護者です。現在行われているのが、ドリームズでは、女子ソフトボール、男女バトミントン、陸上、ソフトテニスです。アロマクラブでは、陸上、男子ソフトボールです。龍ヶ岳地区につきましては、来年度からミニバスケットボール、サッカー、女子バレーボールが本格的にサテライト型に移行していくと聞いています。姫戸地区につきましては、現在サッカーがサテライト型でやっていますが、女子バレーは指導者がまだ決まらないとのことで今後決められると思います。松島地区は、教良木、合津、阿村が一緒になってホーム型でやっていきたいとのことです。大矢野は、基本的にはサテライト型でやりたいとのことです。事務的なことを保護者がやるのは難しいということで、ドリームズに事務的なことをできないかと相談している状況です。今後あと1年4か月しかありませんが、スムーズにやっていきたいと考えています。以上で説明終わります。

○堀江市長

今、活動しているドリームズとアロマクラブは経済面では、なり得ているのですか。

○中田社会教育課長

種目にもよると思いますが、アロマクラブについては、陸上と男子ソフトボールをやってますし、ドリームズについては、女子ソフトボール、男女バトミントン、陸上、ソフトテニスを社会体育としてやっています。

○堀江市長

ということは、大矢野地区でもサテライト型でここにはない種目をやりたいということですか。それは松島も同じですか。

○中田社会教育課長

はい。松島町では3つの地域が一緒になって、ホーム型で野球をやりたいということで、アロマクラブに野球の指導者をどうにか確保できないかということで探しているそうです。

○堀江市長

先行してやる龍ヶ岳はサテライト型ですが、指導者はドリームズかアロマク

ラブから来ていただくことになってるのですか。

○中田社会教育課長

いいえ。ミニバスケットボール、サッカー、女子バレーともに地域の方が主体的に担っているということです。

○堀江市長

龍ヶ岳の場合は、学校のカリキュラムの流れはスムーズにできたということですか。

○中田社会教育課長

はい。龍ヶ岳については、夜、社会体育と一緒にする場合は、龍ヶ岳体育館で活動します。ただ、学校の後にするならば、学校の体育館を使用しています。姫戸地区については、現在、社会体育で剣道とか空手がありますので、幾分かの受け皿になっていくかと考えています。

○堀江市長

教育長、松島地区の立ち上げについて意見交換が行われているのですか。

○高倉教育長

P T A会長さん同士の話し合いは行われています。

○堀江市長

何か色々難しいことがありますか。

○高倉教育長

ソフトボールよりも中学校から軟式野球だから、3校集まって軟式野球をしたいという希望です。指導者の方を何とか見つけようとしているようです。

○堀江市長

指導者がいないのですね。

○高倉教育長

してもいいという人がいるという話は聞きますが。

○堀江市長

社会体育になると、ドリームズもそうですが、会費とか活動費が発生するのですが、その辺の理解はあるのですか。

○中田社会教育課長

はい。ホーム型は当然ドリームズやアロマクラブの規定によって会費が必要かと思えます。今、一番ネックなのは、指導者がいないという所で、なかなかどこも厳しい状態です。

○山下委員

資料の中に、サテライト型の学校終了後の対応の所に、「引き続き社会体育移行後も指導者としての登録をお願いする必要あり」とありますが、地域指導者に指導をしていただくが、学校の先生にも指導者として登録をしていただく

ということですか。

○中田社会教育課長

はい。そのとおりです。

○山下委員

それはどういう立場の指導者になるんですか。

○中田社会教育課長

学校を終わられた後、夜に指導をしていただく方が指導者の中にいてもいいのではないかとということです。学校の先生としてではなく、一指導者としてです。

○山下委員

ということは、いなくてもいいということですか。例えば、サッカーをしていて、指導者は別でいて、学校の先生が指導者として登録するということですか。地域の方が指導者ならば、学校の先生が指導者として登録しなくてもいいんじゃないかと思いました。

○中田社会教育課長

学校の先生も学校と離れて指導してもいいということです。

○堀江市長

ただ、割と先生方も異動があるからずっと先生に頼れないと思います。それと、ドリームズとアロマクラブについては、ある程度指導者の報酬があるのではないのでしょうか。今後、大矢野、松島はそういう集団があるけど、姫戸、龍ヶ岳は社会体育という概念がないから、今はボランティアになっています。今後継続していくにあたって、どうするかを考えないと、ずっと無給ではできないと思います。

○中田社会教育課長

この前、天草市の野球の監督と話をしましたが、向こうは社会体育で子どもたちとやっています。その中で報酬的なものがいろんな形で出てきます。ボランティアという形では難しく、いくらかはいただかないと、なかなか長続きは大変でしょうねという話でした。あと、その地区がサテライト型でやっていきたいとのことであれば、「ボランティアでいいのか。」「ガソリン代を負担するのか。」といった問題については、社会教育課からどうしなさいとも言えないですし、今後社会体育に変わるにあたって難しいところです。

○堀江市長

実際は、毎週の練習だけではなくて、大会出場とか色々あるからですね。理解ある方に協力してもらえるか、ある程度有償で考えないといけませんね。

○山下委員

報酬の部分でいくと、今までは、学校の先生が教えているので、学校の先生

には費用が発生しないということで、色々な生徒が参加しやすい環境にあったかと思うんですが、今回、社会体育化で報酬が発生すると、当然それなりの活動費負担が発生してくるわけで、経済的な面がスポーツにおいても、発生していくことが1点あります。それと、昨日教育委員会の会議がありまして、その中で、例えば松島地区がアロマを使う時に、アロマは人工芝に全面改修されましたが、その費用の負担が審議されたときに、今までは400円だった利用料が、1時間2,000円で5倍になると、上天草市民が使う時に5倍だと結構な負担が社会体育に対してもかかることになります。ここはもう少し、市内の子どもとかが使う時には、費用も検討いただければありがたいなという話が出ましたので、是非検討いただければと思います。

○堀江市長

確かに経済的な負担はかかりますよね。

○小嶋副市長

今の話で、既に条例で準備をしているんですが、確かに人工芝のレートをどのくらいにするのかは悩ましい所ではあります。一応、人工芝の所も人並みに今はなってますが、今後大会になると、参加チームからも負担金を集めるので、そこは大体賄えるんですが。市内と市外の差は格段に付けないといけません。そこでさらに、児童生徒とか学校スポーツの一環という差が付けられるかですね。

○堀江市長

社会体育でも、スタートアップ時の費用負担を助成するという手もあります。ある程度安定するまでには時間がかかります。段階的に徐々に定着するためには、当初の保護者の負担を減らすことも必要だと思います。そういう対応も必要かと思います。

○原田社会教育課長補佐

会費につきましては、その競技によって変わってきます。野球ならばナイターの使用料、体育館ならば体育館の使用料等でも違いますし、頻度によっても違います。例えば、ドリームズの野球は毎月3,000円です。その他に、大会ごとに500円とか納めてもらっているようです。送迎に関わる費用とかを負担していただいているようです。

○田中委員

その大会についても、姫戸とか龍ヶ岳は元々数が少ないので、それに指導者の謝礼を納めるとなったら、どうするのかとなります。活動の時間は、2時間くらいですかね。

○原田社会教育課長補佐

基本的にグラウンドも体育館も午後7時半から9時までです。

○堀江市長

それでは、上天草高校と市内中学校の連携についてお願いします。

○赤瀬学務課長

はい。最後のページに添付してあります資料を御確認ください。上天草高校と市内中学校の連携についてということで、1つ目に、小中高連携の必要性についてです。全国的に、地域の教育力向上のための「小中高連携」が、教育現場のテーマとして取り上げられています。地域の少子高齢化が急速に進む中に、地域を活性化させる人材を、一人でも多く育てるためには、小中高校が連携することにより、12年間を通じて、最大限に子どもたちの基礎学力の定着や生きる力の実践を図るとともに、地域教育力の活性化を図る必要があります。効果として、教職員の能力の向上、生徒の能力の向上、また上天草高校への進学増に繋がるのではないかとということで、効果を考えています。教職員の能力向上については、教科の指導法や、教材開発など情報交換・協議・研究等の教職員間交流を行うことにより、教職員の指導力向上につながります。生徒の能力向上については、高校生が中学校を訪問し、交流事業や出前講座等を行い、併せて研究成果の発表を行うことにより、児童生徒の基礎学力の定着と学力向上が図られます。また、高校生にとっては、イベントでのリーダーや、中学生の前でのプレゼンテーション等を通じて、能力向上が図られます。上天草高校への進学者増については、高校生の出前授業やイベント等での中高生の交流は、進路選択を控えた中学生にとっては、高校生への姿や活動が進路選択への大きな刺激となり、上天草高校への進学意識の向上が図られると考えています。これまでの取り組みについて説明します。まず、管内小中学校から上天草高校へですが、大矢野中学校吹奏楽部が上天草高校の文化祭へ参加しております。また、上天草高校から管内中学校へですが、上天草高校生徒会が各中学校へ訪問し、進学に関する高校説明会を毎年行っております。また、夏季休業中に小学生への学習サポートを行っております。参考ですが、小中連携の状況については、小学校による中学校体験入学・授業体験。職員間交流。今年は、合同防災訓練も行われています。また、今後の動向については、現在、上天草高校学校運営協議会にて、色々協議が行われています。小中学校との連携に関する協議としまして、小中学校と一緒に「未来新聞」を作成し、発表会を行う。テーマは「10年後の上天草」など将来の地域を予想し、上天草の子ども達が将来の夢を共有する。また、先日行われた上天草バザールの出張販売です。小中学校の行事で高校生が販売実習を行う。小中学校の保護者向けに話す機会を作り、高校生に上天草高校の良いところを語らせる。中学生の保護者向けの説明会を実施する。高校生がリーダーとなって、イベントや運動部指導時に小中学校の児童生徒を動かす経験を積ませる等、協議がなされています。この事業の問題

点について学校側に聞いたところ、交通手段の確保がなかなか難しく、小中学校への訪問も近場の学校へ行われているのが現状です。説明は以上です。

○堀江市長

上天草高校そのものについては、県の教育委員会の管轄になりますので、本来は上天草市の教育委員会で話し合うことではないんですが、今、小中高の連携ということで取り上げております。上天草高校は、なかなか定員までいかないケースが続いてまして、課題になっています。福祉科についてですが、10人もいかないケースが続いてまして、地元の福祉施設と連携してオープンスクール的な授業を実施したりして、中学生から関心を高める必要があります。あるいは、福祉科としてもある程度高いレベルの授業をして、唯一の高校ですので、どうにか良くなるように知恵を出していきたいと思っています。

○山下委員

今、市長からも話があったとおり、福祉科については非常に厳しいということで、企画政策課と一緒にあって、案を出してます。いい方向でやろうということで、企画政策課の方で最終的な案をまとめていただいています。先日、学校の先生と、企画政策課の塩平さんと3人で、周防大島高校という所に研修会に行きました。そこも福祉課があって、島です。橋が1つは架かっていますが、島の外から結構いろんな人が来ているということで、取り組みも高校から中学校へのアプローチもあり、例えば、3つ中学校があったんですが、その中学校全部を呼んで、高校で夏休みに勉強会を開いたり、高校の先生が中学校へ出向いて勉強を教えたり、色んな工夫をされていました。この前、上天草市の音楽祭があった時に話があったのが、「高校の先生にも、こういう音楽祭にきて実際に見て欲しいと言ってくれないか」と教育長から私に言われたんですが、なるほどと思いました。高校の方からもそういうアプローチをされないといけないというのは、学校を見て思ったところでもありますし、伝えていきたいと思えます。中学校から高校へとお互いの交流をもっと深めていかないと、生徒の増加に市内からは繋がっていかないだろうと思えます。あと、福祉科については、市内ばかりではなく、市外からも来れることにする等、検討していくように話をしているところです。例えば、本渡あたりから来るときに、通学にかかる負担を検討していく必要があります。大島高校は寮がありました。野球で甲子園に出ているみたいでした。現在も野球部が使っているということでした。寮は大変かと思いますが、交通の面でも通える地域が広がっていくように検討が必要かと思えます。

○堀江市長

こちらも非常に難しい問題で、簡単にはいかないことですので、継続して検討が必要です。上天草高校だけのことを考えると、旧大矢野高校の時から地元

からの上天草高校への進学率は、あまり変わっていません。全体数が下がっているので、それでも生徒数を確保しようとする、市外からの生徒をどうしたら確保できるかを考えていくのがベストかなと思います。あとは、寮とか下宿の受け皿ができればいいかなと思います。下宿の場合は補助がありますが、まだそこまでは行っていません。今後協議していきたいと思います。

#### ○古川委員

お尋ねですが、私は小学生の学習サポートってすごくいいなと思いました。すごく地域に根差して、地域の力の一つとして色々させていただいてることは、すごく嬉しく思います。若い人が近くにいるというのは、地域にとってとても力になることじゃないかなと思います。上天草高校から近い学校は中北小ですけども、龍ヶ岳や松島から通っている生徒もいるし、登立に住んでる生徒は登立小だったり、住んでる近くの学校にも行けると思います。生徒さんが住んでいる地区となれば、色んな小学校でも実現することだと思います。小学生への指導でも、間違っただけは教えられないので、相手に教えるためにはまず、自分が正しい知識を身につけるので、学ぶという所にも力が入ります。是非、色んな学校でも実施していただきたいです。これは、小学校から働きかけるものなんでしょうか。どこから、働きかけているのか分からないんですけど。先程、未来塾の話がありましたが、教えるのが高校生であってもいいと思います。部活がないときは未来塾に行くとか。また、社会体育の話でも、指導者がいないという話ですが、クラブ長はもちろん大人の方がしなくてはなりません、指導をサポートするには高校生でサッカーや野球をしている生徒でもいいのではないのでしょうか。私の考えは単純かもしれませんが、いろいろな所で高校生が活躍することにより、高校生自身も張り合いが出てきて、地域の方も高校生が居てくれて良かったということに繋がっていくと思います。

#### ○堀江市長

例えば、高校のスポーツの監督さんに指導をお願いしたり、毎日ではないが、小中高連携で、一貫して同じ指導者に指導を仰ぐというのもありだと思います。

#### ○小嶋副市長

関連してですが、今、上天草の中学校で上天草高校へ進学してるのは3割弱です。あとは、熊本市内、八代、天草で7割くらい占めており、地域にとっては重要な問題になっています。やはり、外に出ると家庭への負担も増えるし、一旦高校で外に出るとなかなか地元に戻ってきづらい状況です。逆に上天草高校からしますと、生徒が減るとするのは、負の循環が始まります。上天草高校は、学校再編で県の政策に協力をして率先して、思い切って一歩踏み出しています。しかも既存の学校を活用して財政的に負荷がかからないように協力しました。自主的主体的な努力を上天草地域がするのは当たり前の話です。究極的

には、それを政策として持っていく必要があります、特区扱いではありませんが、県にはそれなりのことをやってもらわないと、地域だけの対応では解決は難しいと思います。高等学校の場合、伝統的に高校任せというか、それぞれの高校が校長先生を主体に自分の所は自分で頑張ってくださいというスタイルなので、熊本市内の学校だったらいいですが、それ以外の所は県教委がもうちょっと踏み込んでやっていただく必要があると思っています。私たちも、機会あるごとにそれを言っていかなければならないと思っています。県の方へ要望していく項目を整理して、県と一緒にやっていかなければならないと思っています。

○堀江市長

時間もそろそろきたんですが、1つ、大矢野地区の図書館について、これまでの流れをちょっといいでしょうか。まず、図書館と大矢野地区の老人福祉センターの複合施設を宮津にということで、検討委員会を立ち上げてスタートしています。コンセプトとしては、老人福祉センターも一緒なんですが、幅広い世代の方々が集まる施設にしたいということで、意見集約をしている状況です。予定としては、今年度に基本設計の予算を組んでおりまして、おおよその事業費を算出して、来年度の事業費として計上したいと考えています。春先ぐらいから実施設計に入って、来年の終わり頃か年度の終わり頃の事業着手を目途に進めていきます。委員の皆さんに協議いただいて構想を固めているところですので、教育委員会の方にもお知らせすることになると思います。利用率を上げたいと思いますので、あまり硬い施設ではなく、色々子どもさんから、子育て世代、お年寄りまで気軽に来れるような施設にしたいと思っています。

○堀江市長

あとはよろしいでしょうか。それでは、長時間に渡りまして、ありがとうございました。今日の内容につきましては、伝えていきたいと思っています。ありがとうございました。